

# マーメイド通信

逗子市立図書館報  
第 89 号  
2012 年 11 月 1 日発行  
逗子市立図書館  
逗子市逗子 4-2-10  
046 (871) 5998  
〔電話案内サービス〕

## 池子遺跡群資料館探訪記

秋の一日、図書館職員有志で、池子遺跡群資料館に行ってきました。資料館は池子米軍家族住宅内にあり、展示スペースをひとまわりするだけで、先土器時代から近代までの人々の暮らしぶりに触れることができること、また低地の、水を多く含む土層であるため、普通は腐って残りにくい木製品が見られること等が大きな魅力です。特に、弥生時代の木製農具（鋤）は神奈川県でははじめて発見されたもので、一度は足を運ぶ価値のある資料館です。資料館は米軍住宅地内にあるので、事前に申し込みをして、各自パスポートなどの本人確認証明書を持ってゲートを通ります。資料館の建物まで約 5 分歩き、エレベーターで 3 階へ。奥の一室が目的の部屋です。学校の教室の 1.5 倍くらいの大きさの部屋に、先土器時代から近代まで、かつて逗子に暮らしていた人々が使っていた道具が並んでいます。



時代ごとにまとめられた展示品



加工途中 → 加工後の木製品（弥生時代）

資料館スタッフの一押しは、多量に出土した弥生時代の木製品です。粘土質の土に真空パックのような状態で保存されていたため、色も鮮やかで、およそ二千年もの長い時を経たものとは思えません。図書館所蔵の『池子遺跡群—池子米軍家族住宅建設にともなう調査』（ZB 70. Z イ 10-2）には、「発掘された多様な器種（農具、容器、機織具等）と共に、割材や加工途中の未製品も多く出土したことから、この池子の河道周辺に住んでいた弥生人たちは、自家消費の生産だけでなく、木製品の製作を専門的におこなっていたことを強くうかがわせる」とあります。出土した多様な展示品を眺めながら、遠い時代の人々の、この地でのにぎやかな生活に想いを馳せました。

近代の埋蔵品もあります。昭和 13（1938）年から 20（1945）年にかけて、海軍軍事施設建設のため、池子に住む五十数戸が強制的に移転を強いられました。立退き期間が 3 日間しか与えられず、あわただしい引越しの際に置き捨てられた食器や装飾品等を目にすることができます。

くし、<sup>かんざし</sup>簪、化粧瓶、徳利など日常の生活用品（近代）



## 水戸藩と池子の浅からぬ縁（えにし）とは？

奈良・平安時代、池子は鎌倉郡沼浜郷に属し、鎌倉時代から室町時代には鎌倉郡の太平寺領となり、次に江戸時代（寛永14年／1637年）から明治時代（明治6年／1873年）まで、二百三十余年にわたり、鎌倉・英勝寺領となりました。英勝寺の開山・英勝院は、徳川家康の側室・お勝の方で、池子は水戸藩領であったことなど、資料館に行って、はじめて知りました。

『逗子道の辺史話 第八集』「鎌倉英勝寺領池子村」には、昭和55年当時、土地の古老は昔語りに「英勝寺様」といわず、「水戸様」という言葉を使うとあり、池子村が一種の治外法権の地であったと書かれています。逗子が英勝寺、そして徳川水戸藩とご縁があったとは、本当に面白いですね。

見学の手続き等、資料館の詳しい情報はインターネット「池子遺跡群資料館公式サイト」からご覧いただけます。[http://www.city.zushi.kanagawa.jp/syokan/syougaiakusyu/ikego\\_shiryo/ikego-hp/ikego.html](http://www.city.zushi.kanagawa.jp/syokan/syougaiakusyu/ikego_shiryo/ikego-hp/ikego.html)

### 関連図書

『池子遺跡群資料館（パンフレット）』ZB 70.Z イ

『池子遺跡群－池子米軍家族住宅建設にともなう調査』ZB 70.Z イ 10-2

『池子遺跡群調査だより』ZB 70.Z イ

『かがやく池子遺跡群』ZB 70.Z カ

『池子のあゆみ 1961－1963』Z 21.Z イ

『逗子道の辺史話 第八集』213.7 ズ 8

『人物日本の女性史 8－徳川家の夫人たち－』367 ジ 8に安西篤子著「英勝院」所収



としょかんコラム

職員 美濃輪 裕子

昔から、速読術を習ったわけでもないのに本を読むスピードが速いといわれます。自分ではいたって普通のつもりなのですが……。そのうえ多読のため実に不経済な人間で、小さいころから図書館にはお世話になりっぱなしです。今思えば、小学校の図書室の本はほぼ全てと言ってよいほど読破してしまった記憶があります。

そんな中でも、特に印象に残っているのが作曲家の伝記シリーズです。ピアノは習っていたとはいえ、クラシック音楽に特に詳しいわけでもなかった私ですが、それぞれの作曲家の人生に惹きつけられました。そのシリーズの中でも特に、ブラームスの伝記を読んでどうしても彼の作った曲を聴いてみたくなり、父に頼んですぐにも買ってきてもらったのが交響曲第一番のCD。今でも私の大事な宝物です。その後現在に至るまで、聴くことも演奏することも含めて、音楽は自分の人生と切っても切れない存在となりました。

今は、自分が図書館で働くようになり、またもや気になる本は全て読破したい気持ちで、ワクワクしながら毎日本と接しています。そして、子どもたちにはたくさん本を読んで、その中から自分の大切な何かを見つけて欲しいと願っています。人生の大事な出会いになるかもしれない一冊、そんな本を図書館で見つけてくれる子がいたら、ひとりの親として、また図書館員としても大きな幸せです。

# YA通信

## 特集 「むかしの暮らしをのぞいてみよう」



むかしの人たちは、どんな生活をしていたのでしょうか？  
本を手がかりにむかしの生活を追体験してみよう。

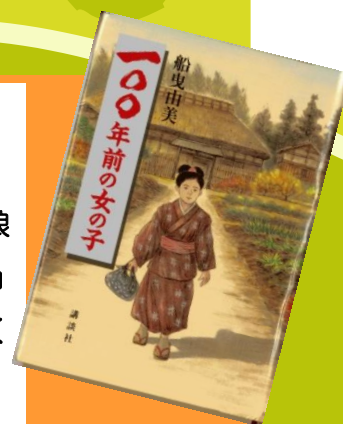


### 100年前

『一〇〇年前の女の子』289.17

ふなびきゆみ  
船曳由美著 講談社

しょうがい  
明治42年生まれの女性の生涯を、娘である著者がつづったノンフィクション。百年前の農村の暮らしがよくわかります。



「おちゃっぴい」と  
よばれていました

### 300年前

『お江戸ガールズライフ』384 I

えとうちふみ  
江藤千文文 おおたうにイラスト  
ブロンズ新社

江戸は世界でも有数の大都市でした。その街に暮らす女の子たちのガールズライフをイラストで解説。



かがはんごさんようしゃ  
『武士の家計簿—「加賀藩御算用者」の

幕末維新—』M210.5 I

いそだみちふみ  
磯田道史著 新潮社

幕末の武士の生活が見えてきます。  
映画にもなりました。

しょうみん  
『なぜ、江戸の庶民は時間に正確だったのか？

—時代考証でみる江戸モノ65の謎—』

やまだしゅんこ  
210.5 Y 山田順子著 実業之日本社

TV・映画の時代考証を担当する著者が語る江戸時代の雑学いろいろ。



今回のテーマは  
時間旅行

ふとしたはずみで、過去にタイムスリップ!  
歴史上の有名人に会ったり…!?  
それとも未来へGO!



『夏への扉』<sup>とびら</sup> 新訳版 933 頁  
ロバート・A. ハインライン著  
小尾美佐訳 早川書房  
描かれる「未来」は2001年です。  
現実と比較してみてもは?

『トムは真夜中の庭で』 新版 93 頁  
フィリパ・ピアス作 高杉一郎訳 岩波書店  
真夜中、大時計が13時を打つと…。

『時の旅人』 YA93 頁  
アリスン・アトリー著 小野章訳 評論社  
イギリスの王位継承権<sup>おういけいしゅうけん</sup>をめぐる大事件に  
まきこまれて!?

レオナルド・  
ダ・ヴィンチが  
実は…?

『影の王』 YA93 頁  
スーザン・クーパー作 井辻朱美訳  
小西英子画 偕成社  
アメリカの少年俳優が、16世紀にタ  
イムスリップ。シェイクスピアと同  
じ舞台に立つ。

『月下花伝一時の橋を駆けてー』  
YA 91.3 頁<sup>こしみすりえこ</sup>  
越水利江子著 大日本図書  
新撰組の沖田総司<sup>しんせんぐみ</sup>が登場します。



図書館名画座映画会のご案内

返子市立図書館では、毎月映画会を開催しています。

【場所】 返子文化プラザ1階 さざなみホール

【開場】 13:30 【開映】 14:00

◆入場無料 当日直接会場へお越しください ◆先着100人まで

11月27日(火)の上映作品

『いまを生きる』

1989年 アメリカ映画

ピーター・ウィアー監督

英語/日本語字幕

12月25日(火)の上映作品

『地下鉄に乗って』

2006年 日本映画

浅田次郎原作 篠原哲雄監督

日本語/日本語字幕